

学生受講結果アンケートまとめ

2025 年度

名古屋学芸大学FD推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では 2007 年度より教育の質の向上を目的として、学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これは FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこの本アンケートを通じて学生の授業の受け止め方(意識)を把握し、授業改善に役立てています。

2014 年度からは様式を「学生受講結果アンケート」に変更し、2018 年度からは従来のマークシート用紙による回答から WEB による回答へと方式を変更して実施してきました。2020 年度から 2022 年度までは、新型コロナウイルス感染予防のため授業形態が多様化し、従来の対面型に加え、リアルタイム型、オンデマンド型、対面とのハイブリッド型が導入されたため、遠隔授業に関する設問を設けました。2023 年度からは、新たに「ディプロマポリシー（卒業までに身につけるべき能力）について」の設問を加え、各学科の教育体系における当該教科の位置づけ（カリキュラムに示された教育目標との整合性）および、その達成状況を評価できるようにしました。また、通常は授業第 13 週以降にポータルから回答する形式で実施していますが、早期に終了する科目については、随時回答できるようにしました。

なお、集計結果は各授業担当者に返却し、「授業運営の教員振り返り」を実施しています。担当教員には、対象科目を 1 科目以上選び、授業形態や分野が異なる科目については、可能な限りそれぞれの科目ごとに振り返りを実施するよう依頼しています。

これらの結果を教員が授業改善に役立てるとともに、「学生受講結果アンケートまとめ」を FD 活動の記録として、大学ウェブサイト公表させていただきます。

目次

「学生受講結果アンケート」の設問

「学生受講結果アンケート」、「授業運営の教員振り返り」結果の概要とまとめ

～本年度 FD 活動を振り返って～

1. はじめに
2. 「学生受講結果アンケート」の実施方法と実施状況について
3. 肯定評価率の算出方法と結果について
4. 学生による DP（ディプロマポリシー）達成度自己評価の実施方法と実施状況について
5. 「授業運営の教員振り返り」の実施方法と実施状況について
6. 昨年度の課題に対する今年度の取り組み
7. まとめと今後の課題

学生受講結果アンケート集計結果

- ・ 大学全体
- ・ 講義
- ・ 演習
- ・ 実験・実習
- ・ 講義・演習

「学生受講結果アンケート」の実施要項

「学生受講結果アンケート」の手順と説明例

「授業運営の教員振り返り」の実施要項

「授業運営の教員振り返り」の手順と説明例

「学生受講結果アンケート」の設問

このアンケートはみなさんの学びの振り返りと授業を充実させるためのものです。結果は教育・授業改善のみを目的に使用し、成績には一切関係しませんので、率直にお答えください。なお、回答の際は、各授業の担当教員からの指示に従ってご回答ください。

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思うものを選択してください。

【1】学習目的の理解と達成状況について

1.

①私は、この授業の学習目的（シラバスに記載された到達目標など）について、よく理解・納得している。

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

2.

②私は、この授業の内容についてよく理解できた／演習によく取り組むことができた

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

3.

・特によく理解（取り組み）できた部分について、入力してください。（全角100文字以内）

4.

・特に理解（取り組み）できなかった部分について、入力してください。（全角100文字以内）

5.

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

6.

④（今の考えとして）私は①の学習目的は達成できたと感じている

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

7.

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

【2】授業の運営について

8.

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

9.

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は自分にとって適切なものであったと思う

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

10.

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

11.

⑨この授業の学習時間は適切であったと思う

選択必須

- 5:大変そう思う 4:わりとそう思う 3:どちらかといえばそう思う
 2:どちらかといえばそう思わない 1:あまりそう思わない 0:全くそう思わない

【3】自由記述

この授業についてあなたの考えを記述してください。

12.

㉔この授業で特に良いと思った部分（全角100文字以内）

13.

㉕この授業で改善した方が良かった部分（全角100文字以内）

（皆さんの意見で次の学期からの授業がより良いものになります。）

14.

㉖その他自分が気づいた部分（全角100文字以内）

例）学びから自分が気づいたこと、特に理解（取り組み）できなかった部分への対策、この学びの今後への活用など、なんでも自由に記述してください。

【4】ディプロマポリシー：DP（卒業までに身につけるべき能力）について

本学では、卒業までに身に付けるべき能力として下記の4つのDPを掲げています。

DP1「知識・技能」、DP2「思考力・判断力・創造力/想像力」、DP3「協働力」、DP4「意欲・態度」。

これらの達成状況についてご回答ください。

15.

㉗この授業を通して「知識・技能」が身についた。

選択必須

- 5：大変そう思う 4：わりとそう思う 3：どちらかといえばそう思う
 2：どちらかといえばそう思わない 1：あまりそう思わない 0：全くそう思わない

16.

㉘この授業を通して「思考力・判断力・創造力/想像力」が身についた。

選択必須

- 5：大変そう思う 4：わりとそう思う 3：どちらかといえばそう思う
 2：どちらかといえばそう思わない 1：あまりそう思わない 0：全くそう思わない

17.

㉙この授業を通して「協働力」が身についた。

選択必須

- 5：大変そう思う 4：わりとそう思う 3：どちらかといえばそう思う
 2：どちらかといえばそう思わない 1：あまりそう思わない 0：全くそう思わない

18.

㉚この授業を通して学びに向かう「意欲・態度」が身についた。

選択必須

- 5：大変そう思う 4：わりとそう思う 3：どちらかといえばそう思う
 2：どちらかといえばそう思わない 1：あまりそう思わない 0：全くそう思わない

【5】担当教員独自設問

※授業担当者からの指示があった場合、回答してください。

19.

㉛

- 5：大変そう思う 4：わりとそう思う 3：どちらかといえばそう思う
 2：どちらかといえばそう思わない 1：あまりそう思わない 0：全くそう思わない

20.

㉜

設問は以上です。

ご協力ありがとうございました。

選択・入力が終わりましたら、下の「回答」ボタンをクリックしてください。

※スマートフォンからの回答の場合、「回答する」ボタンを押してください。

 回答

「学生受講結果アンケート」、「授業運営の 教員振り返り」結果の概要とまとめ ～本年度 FD 活動を振り返って～

1. はじめに

本学教員の授業改善における P (Plan:立案)、D (Do:実行)、C (Check:評価)、A (Action:改善) サイクルは、以下のとおりである。

- ・「シラバス」作成による計画の立案 (P)
- ・各回の授業実施 (D)
- ・「学生受講結果アンケート」による評価 (C)
- ・「授業運営の教員振り返り」による次回改善策の立案 (A)

本レポートでは、「学生受講結果アンケート」および「授業運営の教員振り返り」の実施状況と結果を考察し、授業改善活動を振り返ることで、来年度以降に必要となる F D 活動について検討する。これらの取り組みが、F D 活動における A (Action:改善) に相当する。

2. 「学生受講結果アンケート」の実施方法と実施状況について

アンケートは以下の方法で実施した。

- ・原則として、全クラスの受講学生を対象とする。
- ・ポータルサイトからの Web 入力により回答する。
- ・授業の終盤 (通常は 13 回目～15 回目) の授業内で教員がアナウンスし、その場で回答させる。

実施率は、専任教員 99% (121 人/122 人)、非常勤教員 100% (118 人/118 人) であり、昨年度同様、概ね良好であった (表 1)。

一方、学生回答率は 76.4%であった (表 2)。昨年度から、シラバスの授業計画記載欄に、授業全体の振り返りとして「学生受講結果アンケート」を実施する旨を記載した。また、今年度から、学期の途中で終了する科目については随時回答できるシステムを導入した。これらにより徐々に改善が進んでいると考えられる。今後も受講結果アンケートの重要性を周知し、回答率向上に向けた取組を継続していく。

表 1 「学生受講結果アンケート」実施状況 (教員ベース)

	実施対象教員数		提出教員数		未実施教員数		実施率	
	専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤
2025年前期	122	118	121	118	1	0	99%	100%
2024年前期	124	113	123	113	1	0	99%	100%
2023年前期	118	121	118	120	0	1	100%	99%

表 2 「学生受講結果アンケート」 学生回答率*の推移

年度	2025年度	2024年度		2023年度		2022年度	
学期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
回答率*	76.4	67.9	71.5%	68.5%	71.6%	75.3%	66.7%

*回答者／履修者（未回答科目 6 科目の履修者を含む）

3. 肯定評価率の算出方法と結果について

本学では、授業成功の指標として、受講結果アンケートで以下の条件を全て満たす学生の割合を「肯定評価率」として算出している。

- ・「学習目的をよく理解している」の設問で、5（大変そう思う）または4（そう思う）を選択している
- ・「学習目的を達成した実感がある」の設問で、5か4を選択している
- ・「今後この学修を深めたいと考えている」の設問で、5か4を選択している

過去数年間の肯定評価率の推移を表 3-1 に示す。なお、「強い肯定」とは、上記 3 つの設問全てで 5 を選択した学生、すなわち授業の修得を強く実感している学生の割合を示す。

肯定評価率は昨年度まで改善傾向であったが、今年度はほぼ横ばいになった（表 3-1）。授業方法別の結果では、実験・実習科目での肯定評価率が高く、座学だけでなく、実践を通した学びにより修得度が高まることが示された。これまでは回答者当たりの肯定評価率を算出してきたが、今年度から履修者当たりの肯定評価率も算出した。今後は本指標の推移を注視し、学生の修得度をより適切に評価していく。

表 3-1 「学生受講結果アンケート」 肯定評価率と経年変化

強い肯定評価率（％）回答者当たり								
2025年度	2024年度		2023年度		2022年度		2021年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
31.2 (23.8) *	31.8	32.8	29.8	29.7	25.2	24.4	23.6	22.3

肯定評価率（％）回答者当たり								
2025年度	2024年度		2023年度		2022年度		2021年度	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
72.9 (55.7) *	72.8	72.1	70.2	70.1	63.5	66.2	64.5	65.0

*（ ）履修者当たり

表 3-2 「学生受講結果アンケート」肯定評価率（授業方法別）

強い肯定評価率（%）回答者当たり		
講義	演習	実験・実習
27.6 (21.7)	33.3 (24.5)	43.7 (34.5)

肯定評価率（%）回答者当たり		
講義	後期	実験・実習
69.0 (54.2)	75.7 (55.5)	85.0 (67.1)

() 履修者当たり

4. 学生による DP（ディプロマポリシー）達成度自己評価の実施方法と結果について

学生の DP 達成度（自己評価）を 6 段階（5：大変そう思う、4：わりとそう思う、3：どちらかといえばそう思う、2：どちらかといえばそう思わない、1：あまりそう思わない、0：全くそう思わない）で評価している。

全体として、演習科目および実験・実習科目は講義科目よりも高い値を示した（表 4）。協働力については、特に実験・実習科目において高い評価であった（表 4）。

FD 推進委員会ではこれまで、各教員が授業の中でどのような工夫を行い、各 DP の育成に取り組んでいるかを調査してきた。今後は、こうした取り組みをさらに重ね、教員間で情報を共有しながら、教育改善に繋げていく必要がある。

また、本評価は自己評価であるため、DP 達成度を客観的に評価する方法についても検討する必要がある。

表 4 「DP 達成度」の推移

	講義			演習			実験・実習		
	25年度 前期 n=12,775	24年度 後期 n=9,944	24年度 前期 n=11,512	25年度 前期 n=7,090	24年度 後期 n=6,126	24年度 前期 n=6,744	25年度 前期 n=2,645	24年度 後期 n=2,229	24年度 前期 n=2,637
知識・技能	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.6	4.5	4.6
思考力・判断力・創造力／想像力	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	4.6	4.5	4.5
協働力	3.8	3.7	3.8	4.1	4.1	4.0	4.6	4.5	4.5
意欲・態度	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.6	4.5	4.6

5. 「授業運営の教員振り返り」の実施方法と実施状況について

教員は、前年度後期および今年度前期の担当科目の中から、振り返りの対象科目を 1 科目以上選び、その科目について振り返りを実施した。提出状況を表 5-1 および表 5-2 に示す。

表 5-1 「授業運営の教員振り返り」提出状況の推移

2025年度			2024年度			2023年度		
提出者数	提出率	提出件数	提出者数	提出率	提出件数	提出者数	提出率	提出件数
251	91%	328	253	91%	319	251	93%	313

表 5-2 「授業運営の教員振り返り」提出状況

実施対象教員数		提出教員数		未実施教員数		実施率	
専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤	専任	非常勤
135	142	131	120	4	22	97%	85%

教員ベースの提出率は91%（251/277名）であり、過去3年間の提出率はほぼ横ばいである（表5-1）。また、専任教員に比べ非常勤講師の実施率が低い傾向がみられる（表5-2）。今後は、教員間のコミュニケーションを深め、教育現場における「授業運営の教員振り返り」の重要性を周知していく必要がある。

提出件数については、2023年度から、授業形態や分野が異なる科目について可能な限り提出を依頼してきたこともあり、徐々に増加している（表5-1）。本振り返りは、教員の授業運営におけるPDCAサイクルのA（Action:改善）に位置づけられ、次年度の授業計画P（Plan:立案）に向けた重要なプロセスである。また、学生に向けたメッセージはフィードバックとしての役割を担っている。したがって、今後も振り返り実施の重要性を継続して周知し、可能な限り多くの科目について提出を促していきたい。

6. 昨年度の課題に対する今年度の取り組み

昨年度の課題として、学生回答率が増加していないことが挙げられた。肯定評価率は年々改善している一方で、下位層の学生が未回答で、上位層の学生が回答している可能性も考えられる。そこで、今年度から履修者当たりの肯定評価率も算出した。今後は本指標の推移を注視し、学生の修得度をより適切に評価していく。

また、昨年度は学期の途中で終了する科目の「学生受講結果アンケート」について、Googleフォーム版で回答するシステムとしていたが、ポータル版とGoogleフォーム版が混在し、運用が煩雑であった。今年度からは、学期の途中で終了する科目についても、ポータル版で随時回答できるシステムを導入した。こうした取り組みを重ねることで、少しずつではあるが学生回答率の改善が進んでいると考えられる。

7. まとめと今後の課題

「学生受講結果アンケート」について

- ・実施率は教員ベースで専任99%、非常勤100%であり、概ね良好であった。
- ・学生回答率は76.4%であり、上昇傾向であった。今年度から学期の途中で終了する科目についてもポータル版で随時回答できるシステムを導入した。また、昨年度からシラバスの授業計画に「学生受講結果アンケート」を実施する旨を記載するよう、全教員に依頼した。こうした取り組みにより改善が進んでいると考えられる。
- ・肯定評価率は72.9%と高く、過去4年間の推移を見ても年々改善している。しかし、未回答の学生（約3割）による評価が反映されていない点に留意する必要がある。このため今年度

から履修者当たりの肯定評価率も算出したところ、55.7%であった。今後は本指標の推移を注視し、学生の修得度をより適切に評価していく必要がある。

- 学生の DP 達成度 (0~5 の 6 段階評価) は概ね 4 以上であり、達成度は高かった。特に、演習および実験・実習系科目は、講義科目よりも高い値を示した。各教員が授業の中でどのような工夫をし、各 DP の育成に取り組んでいるかについて、教員間で情報共有を進めながら教育改善に繋げていく必要がある。

「授業運営の教員振り返り」について

- 提出率は、91%であり、過去 3 年間の提出率はほぼ横ばいである。専任教員に比べ、非常勤講師の提出率は低かった。授業の特性や「学生受講結果アンケート」の結果との関連も踏まえ、学科別に課題を検討する必要がある。
- 提出件数は 319 件であり、2022 年度の 286 件から徐々に増加している。2023 年度から、授業形態や分野が異なる科目についてはできるだけ提出を依頼してきたことの成果と考えられる。本振り返りは、教員の授業運営における PDCA サイクルの A (Action:改善) に位置づけられ、次年度の授業計画 P (Plan:立案) に向けた重要なプロセスである。また、学生に向けたメッセージは、フィードバックの役割を担っている。したがって、今後も振り返り実施の重要性を継続して周知し、可能な限り多くの科目について提出を促していきたい。

以上

学生受講結果アンケート集計結果

- 名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表 (大学全体)
- 名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表 (講義)
- 名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表 (演習)
- 名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表 (実験・実習)
- 名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表 (講義・演習)

2025年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (大学全体)

名古屋学芸大学

集計区分	大学全体
------	------

履修者数	29,825
回答者数	22,800

No	設問文	回答数と回答率(%)											有効回答		平均点			肯定回答率			
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		学部	学科	全体	学部	学科	全体		
1	1 学習目的の理解	10,315	45.2%	9,398	41.2%	2,713	11.9%	253	1.1%	80	0.4%	41	0.2%	22,800	0	-	-	4.29	-	-	86.5%
	2 授業内容の理解	10,477	46.0%	8,903	39.0%	2,933	12.9%	342	1.5%	98	0.4%	47	0.2%	22,800	0	-	-	4.28	-	-	85.0%
	3 授業時間外学習	9,555	41.9%	7,868	34.5%	4,051	17.8%	914	4.0%	305	1.3%	107	0.5%	22,800	0	-	-	4.10	-	-	76.4%
	4 学習目的の達成度	9,153	40.1%	9,303	40.8%	3,773	16.5%	416	1.8%	108	0.5%	47	0.2%	22,800	0	-	-	4.18	-	-	80.9%
	5 学習をさらに深めたいか	11,473	50.3%	7,469	32.8%	3,206	14.1%	421	1.8%	160	0.7%	71	0.3%	22,800	0	-	-	4.29	-	-	83.1%
2	6 参加できる学習環境であったか	11,417	50.1%	7,710	33.8%	2,956	13.0%	481	2.1%	157	0.7%	79	0.3%	22,800	0	-	-	4.29	-	-	83.9%
	7 教材の適切性	11,301	49.6%	7,908	34.7%	2,969	13.0%	412	1.8%	149	0.7%	61	0.3%	22,800	0	-	-	4.30	-	-	84.3%
	8 成績評価物の適切性	10,916	47.9%	8,184	35.9%	3,042	13.3%	413	1.8%	165	0.7%	80	0.4%	22,800	0	-	-	4.27	-	-	83.8%
	9 学習時間の適切性	11,260	49.4%	7,998	35.1%	2,877	12.6%	440	1.9%	148	0.6%	77	0.3%	22,800	0	-	-	4.30	-	-	84.5%
4	13 「知識・技能」が身についた	12,213	53.6%	7,752	34.0%	2,469	10.8%	238	1.0%	75	0.3%	53	0.2%	22,800	0	-	-	4.39	-	-	87.6%
	14 「思考力・判断力・創造力／想像力」が身についた	11,038	48.4%	8,009	35.1%	3,188	14.0%	409	1.8%	105	0.5%	51	0.2%	22,800	0	-	-	4.29	-	-	83.5%
	15 「協働力」が身についた	9,546	41.9%	6,725	29.5%	4,356	19.1%	1,379	6.0%	560	2.5%	234	1.0%	22,800	0	-	-	3.99	-	-	71.4%
	16 「意欲・態度」が身についた	11,252	49.4%	7,996	35.1%	2,999	13.2%	361	1.6%	119	0.5%	73	0.3%	22,800	0	-	-	4.30	-	-	84.4%
5	17 担当教員独自設問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

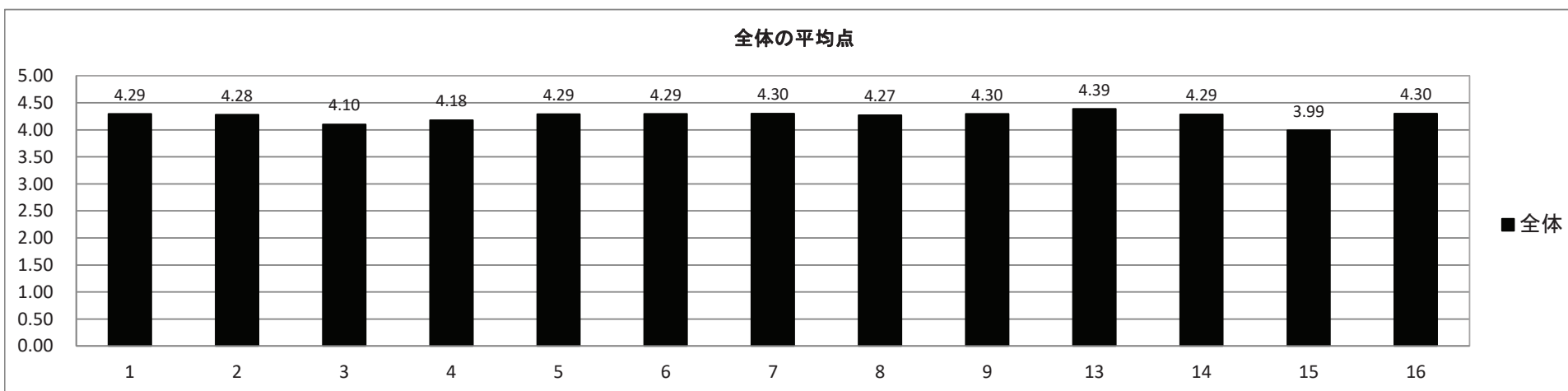
※5と4と回答した比率

学生肯定評価率	率(回答者当たり)	率(履修者当たり)
学修の成功を実感する学生の割合	72.9%	55.7%
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	31.2%	23.8%

※1
※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
 クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
 について比率を算出したものです。
 明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2025年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	講義
------	----

履修者数	16,262
回答者数	12,775

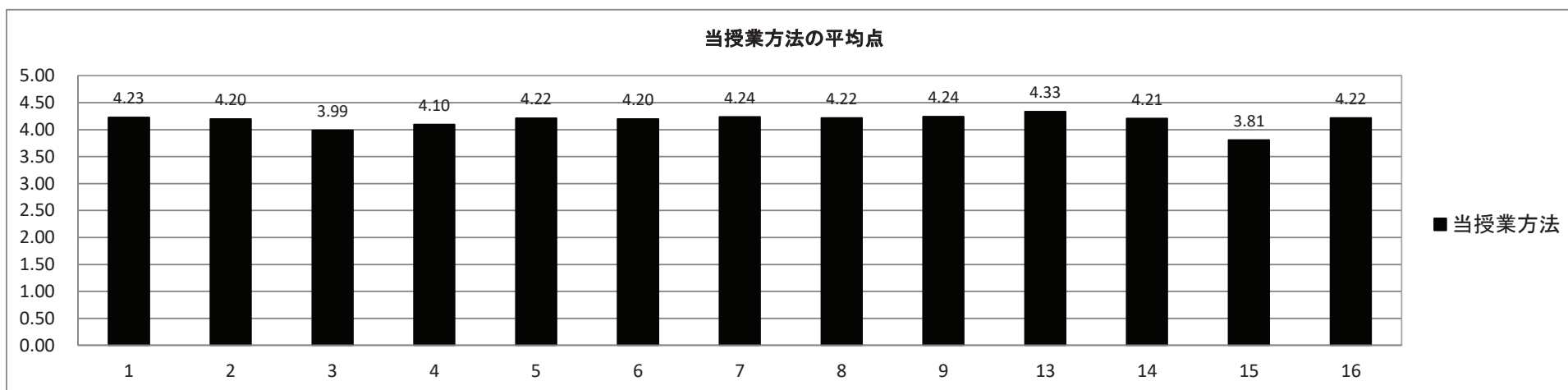
※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)						平均点				肯定回答率					
		5.大変 そう思う	4	3	2	1	0.全くそ うわない	有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	5,285 41.4%	5,468 42.8%	1,771 13.9%	177 1.4%	49 0.4%	25 0.2%	12,775	0	4.23	-	-	-	84.2%	-	-	-
	2 授業内容の理解	5,228 40.9%	5,277 41.3%	1,959 15.3%	224 1.8%	59 0.5%	28 0.2%	12,775	0	4.20	-	-	-	82.2%	-	-	-
	3 授業時間外学習	4,631 36.3%	4,592 35.9%	2,650 20.7%	639 5.0%	210 1.6%	53 0.4%	12,775	0	3.99	-	-	-	72.2%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	4,559 35.7%	5,382 42.1%	2,475 19.4%	263 2.1%	67 0.5%	29 0.2%	12,775	0	4.10	-	-	-	77.8%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	5,867 45.9%	4,421 34.6%	2,047 16.0%	292 2.3%	104 0.8%	44 0.3%	12,775	0	4.22	-	-	-	80.5%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	5,678 44.4%	4,627 36.2%	1,987 15.6%	330 2.6%	107 0.8%	46 0.4%	12,775	0	4.20	-	-	-	80.7%	-	-	-
	7 教材の適切性	5,882 46.0%	4,603 36.0%	1,910 15.0%	263 2.1%	84 0.7%	33 0.3%	12,775	0	4.24	-	-	-	82.1%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	5,670 44.4%	4,800 37.6%	1,919 15.0%	250 2.0%	93 0.7%	43 0.3%	12,775	0	4.22	-	-	-	82.0%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	5,828 45.6%	4,753 37.2%	1,823 14.3%	255 2.0%	77 0.6%	39 0.3%	12,775	0	4.24	-	-	-	82.8%	-	-	-
4	13 「知識・技能」が身についた	6,376 49.9%	4,603 36.0%	1,586 12.4%	135 1.1%	45 0.4%	30 0.2%	12,775	0	4.33	-	-	-	85.9%	-	-	-
	14 「思考力・判断力・創造力／想像力」が身についた	5,562 43.5%	4,770 37.3%	2,078 16.3%	274 2.1%	63 0.5%	28 0.2%	12,775	0	4.21	-	-	-	80.9%	-	-	-
	15 「協働力」が身についた	4,350 34.1%	3,897 30.5%	2,956 23.1%	1,008 7.9%	403 3.2%	161 1.3%	12,775	0	3.81	-	-	-	64.6%	-	-	-
	16 「意欲・態度」が身についた	5,656 44.3%	4,757 37.2%	2,008 15.7%	233 1.8%	80 0.6%	41 0.3%	12,775	0	4.22	-	-	-	81.5%	-	-	-
5	17 担当教員独自設問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学生肯定評価率	率(回答者当たり)	率(履修者当たり)	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合	69.0%	54.2%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	27.6%	21.7%	-	-	-

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
 ※1 クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
 ※2 について比率を算出し、全体と比較するものです。
 明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2025年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	演習
------	----

履修者数	9,668
回答者数	7,090

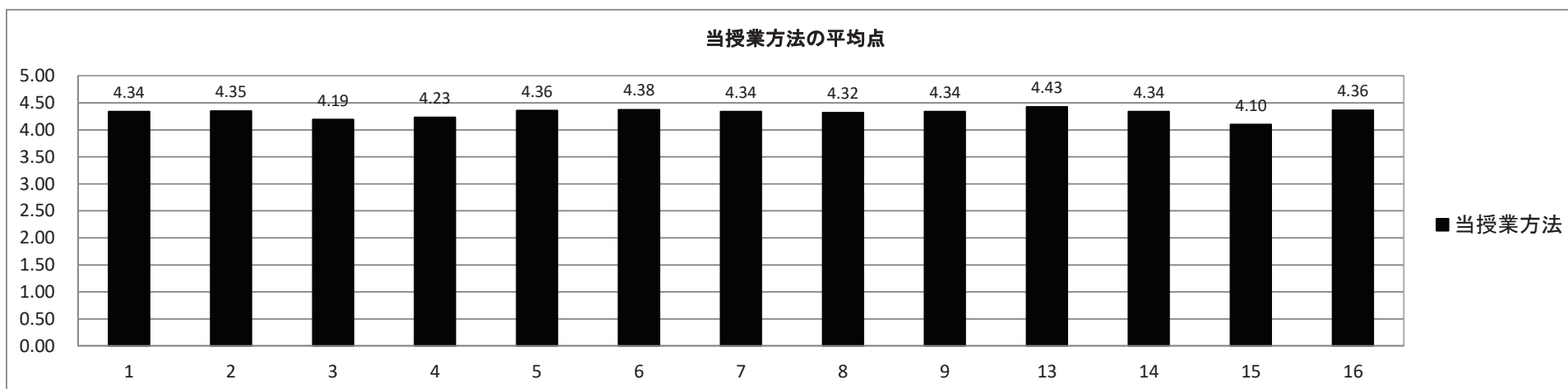
※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)						有効回答	無効回答	平均点				肯定回答率									
		5.大変 そう思う	4	3	2	1	0.全くそ うわない			授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体						
1	1 学習目的の理解	3,410	48.1%	2,853	40.2%	726	10.2%	59	0.8%	27	0.4%	15	0.2%	7,090	0	4.34	-	-	-	88.3%	-	-	-
	2 授業内容の理解	3,564	50.3%	2,634	37.2%	752	10.6%	92	1.3%	29	0.4%	19	0.3%	7,090	0	4.35	-	-	-	87.4%	-	-	-
	3 授業時間外学習	3,263	46.0%	2,403	33.9%	1,091	15.4%	220	3.1%	81	1.1%	32	0.5%	7,090	0	4.19	-	-	-	79.9%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	3,067	43.3%	2,844	40.1%	1,011	14.3%	121	1.7%	30	0.4%	17	0.2%	7,090	0	4.23	-	-	-	83.4%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	3,860	54.4%	2,180	30.7%	881	12.4%	102	1.4%	42	0.6%	25	0.4%	7,090	0	4.36	-	-	-	85.2%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	3,866	54.5%	2,285	32.2%	763	10.8%	118	1.7%	33	0.5%	25	0.4%	7,090	0	4.38	-	-	-	86.8%	-	-	-
	7 教材の適切性	3,698	52.2%	2,391	33.7%	808	11.4%	122	1.7%	48	0.7%	23	0.3%	7,090	0	4.34	-	-	-	85.9%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	3,585	50.6%	2,461	34.7%	854	12.0%	120	1.7%	44	0.6%	26	0.4%	7,090	0	4.32	-	-	-	85.3%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	3,727	52.6%	2,360	33.3%	791	11.2%	137	1.9%	46	0.6%	29	0.4%	7,090	0	4.34	-	-	-	85.9%	-	-	-
4	13 「知識・技能」が身についた	3,988	56.2%	2,318	32.7%	665	9.4%	77	1.1%	24	0.3%	18	0.3%	7,090	0	4.43	-	-	-	88.9%	-	-	-
	14 「思考力・判断力・創造力／想像力」が身についた	3,674	51.8%	2,386	33.7%	870	12.3%	108	1.5%	31	0.4%	21	0.3%	7,090	0	4.34	-	-	-	85.5%	-	-	-
	15 「協働力」が身についた	3,253	45.9%	2,111	29.8%	1,183	16.7%	331	4.7%	143	2.0%	69	1.0%	7,090	0	4.10	-	-	-	75.7%	-	-	-
	16 「意欲・態度」が身についた	3,746	52.8%	2,412	34.0%	780	11.0%	97	1.4%	29	0.4%	26	0.4%	7,090	0	4.36	-	-	-	86.9%	-	-	-
5	17 担当教員独自設問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学生肯定評価率	率(回答者当たり)	率(履修者当たり)	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合	75.7%	55.5%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	33.3%	24.5%	-	-	-

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
 ※1 クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
 ※2 について比率を算出し、全体と比較するものです。
 明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2025年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表 (授業方法別)

名古屋学芸大学

授業方法	実験・実習
------	-------

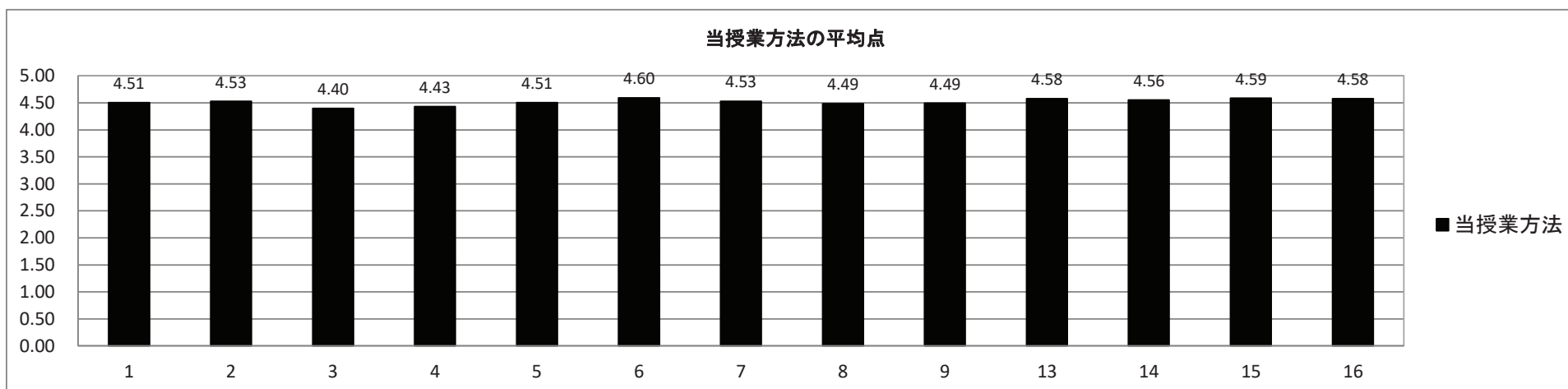
履修者数	3,350
回答者数	2,645

※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)											平均点				肯定回答率						
		5.大変 そう思う	4	3	2	1	0.全くそ うわない	有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体						
1	1 学習目的の理解	1,532	57.9%	939	35.5%	160	6.0%	11	0.4%	2	0.1%	1	0.0%	2,645	0	4.51	-	-	-	93.4%	-	-	-
	2 授業内容の理解	1,603	60.6%	861	32.6%	165	6.2%	12	0.5%	4	0.2%	0	0.0%	2,645	0	4.53	-	-	-	93.2%	-	-	-
	3 授業時間外学習	1,539	58.2%	765	28.9%	257	9.7%	49	1.9%	13	0.5%	22	0.8%	2,645	0	4.40	-	-	-	87.1%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	1,445	54.6%	937	35.4%	230	8.7%	24	0.9%	8	0.3%	1	0.0%	2,645	0	4.43	-	-	-	90.1%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	1,640	62.0%	751	28.4%	221	8.4%	23	0.9%	9	0.3%	1	0.0%	2,645	0	4.51	-	-	-	90.4%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	1,788	67.6%	681	25.7%	152	5.7%	13	0.5%	8	0.3%	3	0.1%	2,645	0	4.60	-	-	-	93.3%	-	-	-
	7 教材の適切性	1,641	62.0%	793	30.0%	191	7.2%	11	0.4%	5	0.2%	4	0.2%	2,645	0	4.53	-	-	-	92.0%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	1,588	60.0%	819	31.0%	199	7.5%	23	0.9%	11	0.4%	5	0.2%	2,645	0	4.49	-	-	-	91.0%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	1,623	61.4%	771	29.1%	207	7.8%	27	1.0%	13	0.5%	4	0.2%	2,645	0	4.49	-	-	-	90.5%	-	-	-
4	13 「知識・技能」が身についた	1,745	66.0%	716	27.1%	161	6.1%	17	0.6%	5	0.2%	1	0.0%	2,645	0	4.58	-	-	-	93.0%	-	-	-
	14 「思考力・判断力・創造力／想像力」が身についた	1,704	64.4%	739	27.9%	181	6.8%	13	0.5%	7	0.3%	1	0.0%	2,645	0	4.56	-	-	-	92.4%	-	-	-
	15 「協働力」が身についた	1,825	69.0%	610	23.1%	169	6.4%	26	1.0%	13	0.5%	2	0.1%	2,645	0	4.59	-	-	-	92.1%	-	-	-
	16 「意欲・態度」が身についた	1,756	66.4%	701	26.5%	162	6.1%	18	0.7%	6	0.2%	2	0.1%	2,645	0	4.58	-	-	-	92.9%	-	-	-
5	17 担当教員独自設問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学生肯定評価率	率(回答者当たり)	率(履修者当たり)	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合	85.0%	67.1%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	43.7%	34.5%	-	-	-

補足説明
 クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
 ※1 クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
 ※2 について比率を算出し、全体と比較するものです。
 明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2025年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表（授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	講義・演習
------	-------

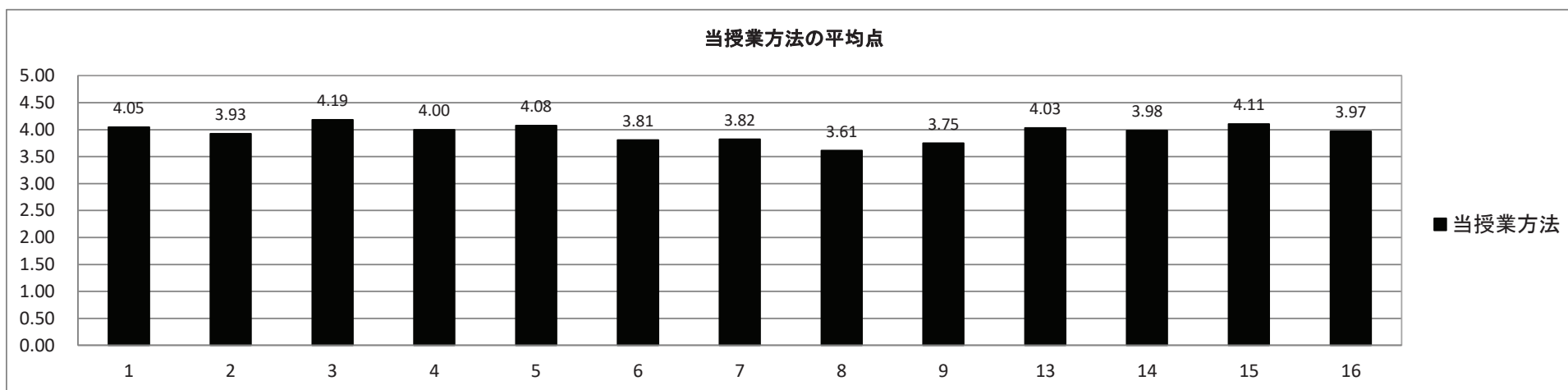
履修者数	545
回答者数	290

※5と4と回答した比率

No	設問文	回答数と回答率(%)											平均点				肯定回答率						
		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	88	30.3%	138	47.6%	56	19.3%	6	2.1%	2	0.7%	0	0.0%	290	0	4.05	-	-	-	77.9%	-	-	-
	2 授業内容の理解	82	28.3%	131	45.2%	57	19.7%	14	4.8%	6	2.1%	0	0.0%	290	0	3.93	-	-	-	73.4%	-	-	-
	3 授業時間外学習	122	42.1%	108	37.2%	53	18.3%	6	2.1%	1	0.3%	0	0.0%	290	0	4.19	-	-	-	79.3%	-	-	-
	4 学習目的の達成度	82	28.3%	140	48.3%	57	19.7%	8	2.8%	3	1.0%	0	0.0%	290	0	4.00	-	-	-	76.6%	-	-	-
	5 学習をさらに深めたいか	106	36.6%	117	40.3%	57	19.7%	4	1.4%	5	1.7%	1	0.3%	290	0	4.08	-	-	-	76.9%	-	-	-
2	6 参加できる学習環境であったか	85	29.3%	117	40.3%	54	18.6%	20	6.9%	9	3.1%	5	1.7%	290	0	3.81	-	-	-	69.7%	-	-	-
	7 教材の適切性	80	27.6%	121	41.7%	60	20.7%	16	5.5%	12	4.1%	1	0.3%	290	0	3.82	-	-	-	69.3%	-	-	-
	8 成績評価物の適切性	73	25.2%	104	35.9%	70	24.1%	20	6.9%	17	5.9%	6	2.1%	290	0	3.61	-	-	-	61.0%	-	-	-
	9 学習時間の適切性	82	28.3%	114	39.3%	56	19.3%	21	7.2%	12	4.1%	5	1.7%	290	0	3.75	-	-	-	67.6%	-	-	-
4	13 「知識・技能」が身についた	104	35.9%	115	39.7%	57	19.7%	9	3.1%	1	0.3%	4	1.4%	290	0	4.03	-	-	-	75.5%	-	-	-
	14 「思考力・判断力・創造力／想像力」が身についた	98	33.8%	114	39.3%	59	20.3%	14	4.8%	4	1.4%	1	0.3%	290	0	3.98	-	-	-	73.1%	-	-	-
	15 「協働力」が身についた	118	40.7%	107	36.9%	48	16.6%	14	4.8%	1	0.3%	2	0.7%	290	0	4.11	-	-	-	77.6%	-	-	-
	16 「意欲・態度」が身についた	94	32.4%	126	43.4%	49	16.9%	13	4.5%	4	1.4%	4	1.4%	290	0	3.97	-	-	-	75.9%	-	-	-
5	17 担当教員独自設問	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

学生肯定評価率	率(回答者当たり)	率(履修者当たり)	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合	63.4%	33.8%	-	-	-
(その中で特に強く成功を実感する学生の割合)	21.7%	11.6%	-	-	-

補足説明
 クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
 ※1 クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
 ※2 について比率を算出し、全体と比較するものです。
 明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



実施要項

① 2025年5月13日<早期>

② 2025年7月1日<通常>

名古屋学芸大学授業担当者 各位

名古屋学芸大学FD推進委員会
委員長 藤木 理代

2025年度前期「学生受講結果アンケート」の実施について

平素より本学の教育活動にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて今期もWebを用いた「学生受講結果アンケート」を行います。このアンケートは、学生が授業全体の振り返りと、達成状況の自己分析を行うことで、今後の学びの意欲を高めることを目的としています。そのため、**全授業が対象となります。授業内で時間を設け、学生にその場で回答するようご指導ください。**詳細は下記をご確認ください。

なお、このアンケートは教員による授業・教育改善に繋がるものであり、大学に義務づけられているFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、また第三者評価の根拠資料として重要な意味を持ちます。こうした事情をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

記

1. 実施日程

下記期間の授業時間内で、学生に**ポータルシステムから**回答入力させてください。

授業の終了時期により実施期間の開始が異なります。

① **学期途中で終了する科目：2025年5月13日(火)～2025年8月6日(水)**

※8コマ科目、前期の前半終了科目、一部の学外実習等

② **学期末で終了する科目：2025年7月8日(火)～2025年8月6日(水)**

※通常授業期間〔～15週目〕で終了する科目

2. アンケートの対象となる授業

原則として、**全ての授業（およびその授業担当の専任教員及び非常勤講師）を対象**に実施します。

但し、以下の授業は対象から除きます。

① 一部の集中講義等、上記の期間中に開講しない授業

② 今学期に成績評価しない（次学期以降に開講期をまたぐ）授業

なお、アンケートは授業番号（例：1A01）単位で回収、集計しますので、**同一授業番号の授業を複数の教員で担当する場合（オムニバス等）は、代表教員（採点担当者）が、アンケートの実施教員および実施授業回を調整してください。**

3. アンケートの狙いと活用方法

「【1】学習目的の理解と達成状況について」では、学生が授業目的を正しく理解しているか、その内容を理解・修得して得た達成感が、次の学修行動への動機付けに繋がっているかを確認することができます。学生が良く理解できたことや理解できなかったことを教員が把握し、授業内容の改善を図ることは、今後の学生の修得度の向上に繋がります。「【2】授業の運営について」では、学習環境、教材、評価物の適正などを評価できます。これらが学習目的の達成度に影響していることも考えられます。「【3】自由記述」では、学生が授業の改善点や良い点を自由に記述できます。教員はこれらから、自身の授業の改良すべき点や強みを把握し、より良い授業へ発展させることができます。「【4】ディプロマポリシー（卒業までに身につけるべき能力）について」では、各学科の教育体系における当該教科の位置づけ（カリキュラムに示された教育目標との整合性）とその達成状況を評価することができます。

これらの設問項目だけでは不十分な場合、「【5】担当教員独自設問」で適宜設問を追加してください。

新しい試みを授業に取り入れた場合などは結果が芳しくないこともあります。試みと結果の因果関係を分析しながら、経年変化をご確認ください。

4. 実施方法について

（1）効果的な振り返りの実施

授業内で時間を設け、学生が各自の学修の振り返りを行い、その場でポータルシステム（Web）を利用し回答を入力するようご指示ください。各授業内容を振り返らせ、学修できたこと、できなかったこと、その理由を自身の取り組みの姿勢を含めて評価し、今後すべきことなどを考えさせて、次の学びに向かう意欲に繋がるようご指導ください。

（2）手順と説明例

学生への説明等のおおよその手順として、3ページに、《学生受講結果アンケート手順と説明例》を示します。適宜ご活用ください。説明及び回答（入力）時間は全部で20～30分程度を想定しています。アンケート様式は、授業方法（講義／演習／実験／実習／講義・演習／等）にかかわらず同一です。なお、学生へは事前に、回答方法等を記載した案内「学生受講結果アンケート回答マニュアル」をポータルシステムへ掲示し周知しています。（添付資料 No.1（学生への案内）参照）また、教員独自の設問を任意に設定することができます。その場合は、板書、ポータル、メール、Moodle 等により、各自で学生に周知してください。（添付資料 No.2（設問）設問【5】⑰～⑱参照）

5. アンケート結果の集計と取り扱いについて

アンケートの集計は、外部機関（業者）に委託し次の2通り行います。

（1）各教員の授業ごとの集計（集計結果表、自由記述結果表）

10月中旬にメールボックス等において、各授業担当教員（複数教員で担当の授業は代表教員）へ返却予定です。教育実践記録集（ティーチング・ポートフォリオ）として、シラバス、「教員振り返り」等とともにお手元にファイル、保管いただき、授業改善の資料としてご活用ください。

（2）授業方法全体および各授業方法別での、大学、学部、学科、教養、教職単位の集計

（1）とともにFD推進委員会の管理下に置き、調査結果の掌握及び分析等、大学としての組織的な授業改善へ活用します（教務課にて保管）。また、学科長等へ提供し、各教員の現状・課題の把握、助言等に活用します。

6. アンケート集計後のフィードバックについて

集計結果を返却後、各授業担当者にポータルシステムから「授業運営の教員振り返り」にて授業改善計画をご提出いただき、それを学生にフィードバックいたします。提出方法等詳細は、集計結果返却時にあらためてご案内いたします（10月中旬を予定）。

また、FD推進委員会にて大学全体の結果をまとめ、大学ウェブサイト等へ公表いたします。

以上

<この件に関するお問い合わせ先>

教務課（FD推進委員会事務局）（内線2225）

外線0561-75-2795、Eメール：ed-nuas_gr@nuas.ac.jp

《学生受講結果アンケート手順と説明例》

以下、説明例です。***の部分は、実施時に各授業に応じて変更してください。
また、遠隔授業（特にオンデマンド型）の場合は、適宜加工の上ご活用ください。

①アンケートの趣旨の伝達

これから学生受講結果アンケートを行います。このアンケートは、皆さんがこの科目を受講して何を学修できたか、何を理解できなかったか、これから何をより深めていきたいかなど、各自が振り返りを行うことで、今後よりよい学びにつなげていくことを目的としています。

誰がどのように回答したかを担当教員が知ることはありません。また、内容が成績に影響することはありません。皆さんの今後のよりよい学修と授業改善の為に利用されるものです。（可能であれば、「実際に過去に皆さんの意見を基に**を改善しました」、等具体例を挙げて説明する。）

②授業の狙いと概要の説明、振り返りの誘導

シラバスに記載されているように、この授業のテーマ及び到達目標は、***でした。そのために、***を学び、***について考えました。よく学べたこと、あまり学べなかったことや理解できなかったこと、興味をもったこと、より深く学びたいと思ったことなどを各自考えてみてください。

③スマートフォン（タブレット、パソコン）等の準備


では、自分のスマートフォン（タブレット、パソコン）を出してください。アンケートは各自のポータルシステムから入力しますので、準備ができた人から自分のポータルシステムを開いてログインしてください。

（参考）

- ・PC(<http://portal.nuas.ac.jp>)
- ・スマホ、タブレットなど (<http://portal.nuas.ac.jp/s>) QRコード



④学生入力

ポータル画面メニューにある(PC)「アンケート関連」⇒「授業評価回答」/(スマホ) マーク
⇒「授業評価回答」⇒「授業評価一覧」と進み、この授業***（科目名）を選択したら設問を良く読んで回答を初めてください。自由記述欄もあります。ここもできるだけ書き込んでください。なお操作方法は、ポータル掲示にある「学生受講結果アンケート回答マニュアル」にも記載されています。ネットにつながりにくく入力できない人は、少し間を置いて再入力してみてください。本説明を含む回答時間は全部で20～30分を想定しています（学生が落ち着いて回答できるよう、十分な時間を確保してください）。

以上

2025年10月1日

名古屋学芸大学授業担当者 各位

名古屋学芸大学FD推進委員会
委員長 藤木 理代

「授業運営の教員振り返り」の作成及び提出について

平素より本学の教育活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

「授業運営の教員振り返り」につきまして、2025年度前期、または2024年度後期学生受講結果アンケートの集計結果をご確認いただき、ポータル上の指定フォームよりご提出をお願いいたします。詳しくは下記および添付の『「授業運営の教員振り返り」の提出手順』でご確認ください。

入力欄は最大3科目分あります。少なくとも1科目についての提出が必須となります。ただし、授業形態や分野が異なる科目はできるだけそれぞれご提出いただきますようお願い申し上げます。

なお、「授業運営の教員振り返り」は、各自の教育改善、教育業績の記録等としての活用だけでなく、学生からの疑問や要望などに対する回答の意味も持ちますのでできるだけご回答ください。回答は学生、教職員向けのポータルシステムにて学内公開されます。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

記

対 象：学生受講結果アンケートを実施した全教員（専任、非常勤）

※ただし、複数教員で担当の授業については、代表教員（採点担当者）

提出期限：2025年10月17日（金）17:00

提出方法：ポータルシステムの「アンケート回答」から入力

保 管：教育実践記録集（ティーチング・ポートフォリオ）に、シラバス、学生受講結果アンケート結果等とともに、各自でファイル、保管しご活用ください

<項目と書き方>

項目	書き方
①科目の概要と学修目的	・その科目の概要、および学修目的（～を学びXXXを身につける、～を考えるなど）を明記する。
②取り組みに対する成果の評価	・今年度の取り組みに対する教育効果をアンケート結果(肯定評価率)から評価する。 ・経年変化を見て、昨年以前のデータと比較した結果も記述する
③結果の考察	・なぜ②の結果になったのか、授業の良い点や、改善点を踏まえ考察する。
④次年度改善課題への方策	・③の分析の結果、改善の余地がある部分を課題として、次年度の取り組み計画を記述する。
⑤学生へのメッセージ	・学生が今後学修意欲をさらに高められるような内容の記述を心がける。 例 学修をさらに深めるためには、次に～を学ぶとよい。 ・学生への不満は記述しない（学生の学修意欲向上が記述目的であるため）。

<留意点>

- 原則、学生及び教職員へ、設問①～⑤まですべての項目をそのまま公開します。文章表現等にご配慮ください。
- ログインから回答まで60分を経過するとタイムアウトとなり、入力内容が消えます。事前にWord等で回答作成後、コピー&ペーストで入力いただくことをお勧めします。
- ポータルシステムに非対応のOS、ブラウザから回答された場合、正常に受付されない場合があります。対応ブラウザについては、以下をご参照下さい。

【ポータルシステムの対応OSとブラウザ（PCの場合）】

- OS：Windows 8.1, Windows 10（推奨）, macOS 11.x, 10.15.x, 10.14.x
- ブラウザ：Microsoft Edge, Mozilla Firefox, Google Chrome, Safari

以上

<お問い合わせ先> 名古屋学芸大学教務課（FD推進委員会事務局）（内線 2225）
外線 0561-75-2795、Eメール：ed-nuas_gr@nuas.ac.jp

2025年度「授業運営の教員振り返り」の提出手順

ポータルシステムから、以下の手順で「授業運営の教員振り返り」の提出をお願いいたします。回答ボタンを押した後も、期限内であれば何度でも入力追加、変更が可能です。

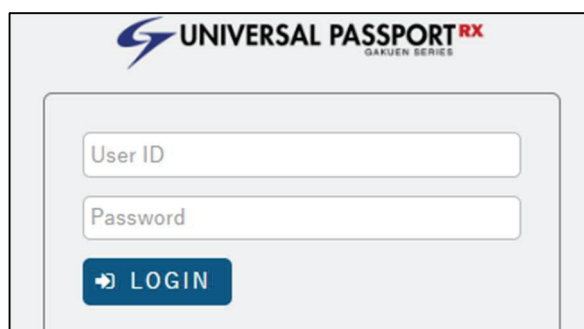
回答期限【 10月17日(金)17:00 】を超えますとポータルシステムにアンケートが表示されなくなります。期限内に必ずご回答いただきますようお願いいたします。

<ご注意ください!>

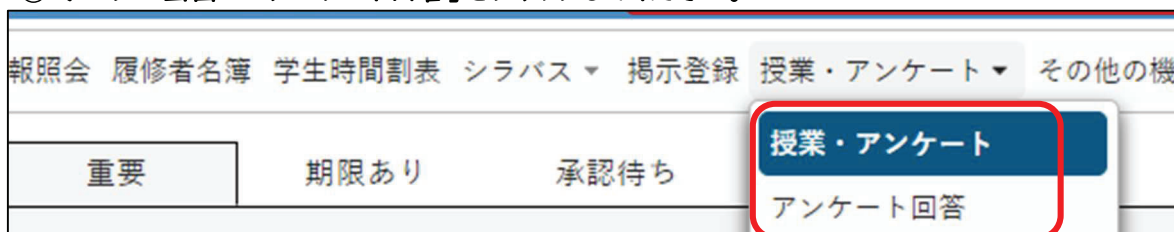
- ログイン～「回答」まで60分でタイムアウトになり、入力内容は消えてしまいます。
- 文字制限2,000文字以内の設問があります。事前に回答をWord等で作成し文字数確認後、コピー&ペーストにてご入力ください。(作成データは、各自でお手元に保管ください。)
- 入力途中でも右下の「一時保存」ボタンでそこまでの入力内容を保存できます。
※ただし、入力完了後には必ず「回答」を押してください。(「一時保存」の状態では提出は完了していません)
- エラーがある場合、画面中央に「エラーがあります」と通知され、該当箇所が赤色に変わります。回答欄の下にエラーの詳細が赤字で表示されますので、確認の上ご修正ください。
- 編集作業の都合上、改行はせずご入力ください。データで(|)となります。

① 成績入力等ご利用の大学ポータルシステム (<https://portal.nuas.ac.jp>) より、ご自身のUserIDとパスワードを入力してログインしてください。

※UserID・パスワードが不明の場合は、教務課までご連絡ください。



② ポータル画面の「アンケート回答」をクリックしてください。



③ アンケート回答一覧から、タイトル「授業運営の教員振り返り」をクリックしてください。

※2科目以上回答される際は、1科目目を回答後、続けて「(2科目目) / (3科目目) 授業運営の教員振り返り」へ入力ください。最大3科目まで回答欄がございます。

アンケート回答一覧	
▼ 回答対象アンケート	
状況が未回答のアンケートについて期間内に回答して下さい。	
授業運営の教員振り返り (回答期限 10月21日 (金) 17:00) (教務課)	未回答
(2科目目) 授業運営の教員振り返り (回答期限 10月21日 (金) 17:00) (教務課)	未回答
(3科目目) 授業運営の教員振り返り (回答期限 10月21日 (金) 17:00) (教務課)	未回答

④ 「授業運営の教員振り返り」フォームにご入力をお願いいたします。

※ 『所属学科等』については、アンケート実施科目の所属する学科等を選択。

※ 全項目回答必須です。

1.
授業担当者名 (必須)

2.
アンケート実施科目の所属学科等
選択必須

管理栄養学科
 メディア造形学部共通
 映像メディア学科
 デザイン学科
 ファッション造形学科
 子どもケア学科
 看護学科
 教養教育
 教職課程

⑤ ご入力後は、最後に「回答」→「OK」をクリックしてください。

※回答をクリックされる前に、保管用に画面を紙に印刷、または入力内容のデータ保存の上、「教育実践記録集(ティーチング・ポートフォリオ)」としてファイリング、保管をお願いします。

<紙印刷の例> 画面上で右クリック→「印刷」を選択

<データ保存の例> 入力内容を Word 等にコピー&ペーストし、保存

項目は以上です。
回答を押す前に、内容を印刷・データ保存下さい。(ティーチング・ポートフォリオとして保管)
回答後、エラーの場合は修正し、再度回答を押して下さい。
お疲れ様でした。

回答

回答します。よろしいですか?

エラーが表示されなければ、手順は以上となります。
(エラーの場合、該当箇所(赤色で表示)を修正の上、再度「回答」をクリックしてください。)

ご回答いただいた内容については後日、確認させていただく場合がございますのでご了承ください。また、回答についてご不明な点がございましたら、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

<お問い合わせ先> 名古屋学芸大学教務課(FD推進委員会事務局) (内線 2225)
外線 0561-75-2795、Eメール:ed-nuas_gr@nuas.ac.jp